

2015年度東京医科大学英語

解答

第1問	16-①	32-③
1-③	17-②	33-③
2-②	18-①	C.
3-⑤	19-⑤	34-③
4-②	20-③	35-②
5-①		36-②
	第4問	D.
第2問	A.	37-④
6-②	21-⑱	
7-②	22-⑥	第5問
8-②	23-⑬	(2)
9-④	24-⑨	(10)
10-⑤	25-⑤	(15)
	26-⑮	(17)
第3問	27-②	(21)
11-④	28-④	(24)
12-⑥	29-③	(26)
13-③	30-⑰	(30)
14-⑥	B.	
15-④	31-②	

第1問

1-③

muscle [m'ʌsl] ③psychology が同音である。①conscious[ʃ], ②lose[z], ④success[ks], ⑤wisdom[z]となっている。

2-②

stomach [st'ʌmək] ②conquer が同音である。①chore[tʃ], ③knee の k は、黙字である。④question [stʃ], ⑤touch[tʃ]と発音する。

3-⑤

worst [ɔːɪ] ⑤search が同音である。①airport と②broad は[b], ③heart [hɑːt], ④knowledge[ɑː]である。

4-②

heaven[héiv(ə)n] ②friendship が同音である。①conceal, ③protein, ④recent は, [fɪ]と発音する。⑤steak[ei]と発音する。

5-①

laughed [t] ①attached が同音である。②imagined と④raised は[d]である。語尾が-d と-tで終わる動詞の過去形は, ③posted と⑤recommended のように[id]と発音する。

第2問

6-④

a. 「彼が馬鹿な真似をして笑いものになるのを止めさせることができればよいのに」 stop A (from) doing 「A が～するのを止めさせる」前置詞の省略に注意する。○make a fool of oneself 「ばかな真似をして笑いものになる」

7-⑤

b. 「彼女は試験を合格して、ハーバード大学に入学した。彼女の父が彼女を誇りに思うのも無理はない」 may well do は「～するのも無理はない、もつともだ」という意味である。○no more 「それ以上～ない」、○by no means 「決して～しない」

8-②

c. 「パーティがキャンセルになったことはベティにとっては期待外れだったが、彼女はすぐに元気になった」 disappointment 「期待はずれ、失望のもと」が適切である。○deception 「詐欺、欺くこと」、○discontent 「不平不満」、○disgust 「嫌気」、○disillusion 「迷いから覚まさせる、本当のことを教える」

9-④

d. 「ジーンズでは社長の歓迎会へ行くことはできない。それは問題外です」 out of the question=impossible 「問題にならない」という意味である。○reception 「披露宴」、○in a serious jam 「窮地におちいって」、○out of curiosity 「興味本位」

10-④

e. 「その時、すべきことがたくさんあったけれども、そのようなわくわくさせられる申し出を断ることができなかった」 **turn down** 「断る」が適切である。○**cut off** 「切り取る」、○**go through** 「通り抜ける、経験する」は、日常会話でよく使われる。例文 **My mom went through all my stuff.** 「母は私の物を全部調べた」 **In order for me to go through this book it may take more than a week.** 「この本を読み終えるのに一週間以上かかるかもしれない」○**take over** 「引き継ぐ」

第3問

11-④ 12-⑥

a. I must say, do lend to judge you by what you wear. 「着ているもので判断される傾向がかなりある、と言わなくてはいけない」強調の助動詞 **do** の位置に注意する。読むときもこの **do** を強調することがある。

13-③ 14-⑥

b. He had no money, nor did he know anyone he could borrow from. 「彼はお金がなかったし、貸してくれる人も知らなかった」まず **anyone** から埋めていくとよい。関係代名詞を補って考えるのがポイントである。nor+倒置文になっている。

15-④ 16-①

c. You needn't have carried all these parcels yourself. The shop would have delivered them if you had asked them. 「これらの小包を自分で運ぶ必要はなかったのに。店に頼めば配達してくれたのに」仮定法過去完了の文である。S would have done if S' had done~. 「(過去のことに對して) ~していたら、~だったのに」という意味である。need +完了形「~する必要はなかったのに」の表現も覚えておくとうい。例文 **He need not have gone there.** 「そこへ行く必要はなかったのに」

17-② 18-①

d. It's our group's rule that the members do not have to talk about anything they do not want to. 「メンバーは話したくないことについては話さなくてよいというのがわれわれのルールである」 **anything** と **they** の間に目的格の関係代名詞を補って考える。この **anything** を先に埋めることがコツである。

19-⑤ 20-③

e. The doctor wanted the patient to understand that, even though she felt weak and sick, the medications would soon make her feel better, and that, with the right treatment, she could still live a long life.

「その医師は、たとえ体力の減退を感じて気分が悪くなくても、その薬剤を服用すればすぐに良くなり、適切な治療でまだ長生きできるということを患者に理解して欲しかった」文は The doctor wanted 人 to V that A and that B となっている。make O do~「O に~させる」使役動詞の make である。force のような意味で「無理に~させる」という意味がある。○feel weak 「弱る」、○medication 「薬剤」

第4問

和訳

私は、若い人達に経験を積むべきだとよく言う。述べたとおり、私は普通の人である。しかし他の人達がしないようなことを20年以上したことを通して、独自の物の見方をもつようになった。才能は生まれつきのものであるから、それについてはなにもできることはない。あなたの能力を磨くことについて他の方法を考えてみると、その答えは経験することである。経験を積み、すばらしい利点を得ることになるだろう、“圧倒的な強み”である。

私はいつも、なぜ人々はシンプルだが極めて効力を発揮する方向を取らないのか不思議に思う。先日、ロボット工学を研究する大学生に会った。彼は、日本は素晴らしい技術をもっているが、介護のような分野でもっと使われることができるのに、実用的に応用するところでは後れていると言う。私が彼に介護用施設で働くことを提案した時、その学生はちょっと困惑していたように見えた。

みんな遠回りに見えることは気が進まないと感じるし、それは他の人もしないだろう。しかし、もしもその学生が介護施設で働くならば、そこで本当に必要にされていることを理解できるだろう。それに対して、とても能力のある生徒であっても、その仕事を経験しない限り、本当に必要なことを理解できないのである。

そしてもしその経験がお金を絡むならば、さらによい。お金が絡むとなると、人は真剣になる。真剣になれば、ちょっとした言い争いが始まるかもしれない。しかし、軋轢は物事と人々の本質を明らかにするので、そういう軋轢を経験したほうがよい。1人のノンフィクションライターとして、言い争いは、民族の違いや国民的背景を含んだ1つの国の価値観を、私に教えてくれるのである。

現代はインターネットの時代であるという。机に向かって莫大な量の情報を集めることができる。だから辺境の地はますます少なくなっている。しかしインターネットが浸透すればいっそう、実際に現地に行くことがますます意味のあることになると思います。

実際の場所に行かずに書いたり考えたりする人々が多くなると、実際現場を訪れる人々は素晴らしいメリットを持つようになる。それに私は必要な情報をすべて同時に手に入れるのは困難であると確信している。情報を伝える手段を発達させること、すなわちスピードの問題ではない。

ソマリアランドを含めた3つのソマリアの地域では、インターネットと携帯電話で大量の情報を得ることができる。しかしこの3つのエリアの人達はお互いについて情報をもっていない、それで私に他の地域のおいてはどんな感じなのか尋ねてくる。

ジャーナリストたちを含めて、モガディッシュにいる人々は、私がソマリアランドの人々は銃を持ち歩いていないと伝えるとショックを受けていた。私もショックを受けた、“なぜ彼らは知らなかったのだろうか”と。多分ポジティブなニュースは大見出しにならないからである。誰もそういう情報は外へと送らない。

私は、当事者でさえ実情を知らないのであるから、全体像を把握することは、関連情報を集めることは不可能であると考えるように最近になってきた。思い込み、誤解、憶測に基づいて彼らは決めていて、そのことがいっそう本当の状況を把握することを困難にさせている。

現地に行けば全体像がわかると言っているわけではない。しかし、その場所から少なくとも、感じることはできる。一例としてモガディッシュの人々をあげると、ニュースメディアは幸福なニュースを配信することは得意でないと思う。ニュースメディアはマイナスのニュースをたくさん伝えるので、私のようなノンフィクションライターには真実の姿“とくにポジティブな側面”を伝えることに責任がある。

今、自分の役割がはっきりとわかる。しかし私が40代になるまで私が長い間、するべきことについて確信が持てなかったと言うべきである。

しかし私は、自分をわくわくさせることをするべきだと提案する。例えば、それが自分のキャリアに役立つとよいと思って、行う“べき”であると思うことを選択して行う傾向にある。しかし、もっとわくわくすることのほうがずっと楽しいし、最後にはもっと実りがあるものになるのだ。

<出題された単語・熟語・文法・センテンス>

- ordinary 「普通の」
- point of view 「物の見方」
- accumulate 「積み重ねる」
- overwhelming 「圧倒的な」
- effective 「効力を発する、効果がある」
- path 「小道、進むべき方向」
- lag behind 「競争相手に後れを取る」
- practical application 「実用的応用」

- nursing care facility 「介護用施設」
- detour 「回り道」
- requirement 「要求されるもの」
- squabble 「つまらないことでのけんか」
- friction 「軋轢」
- ethnic distinction 「民族的相違」
- national background 「国民的背景」
- 第6段落第3文 **But the more the Internet penetrates the world, the more meaningful it becomes to actually go to a location, I believe. the+比較級, the+比較級** 「～すればするほどますます～」の文である。「しかしインターネットが浸透すればいっそう、実際に現地に行くことがますます意味のあることになる」と私は強く思う」
- penetrate 「浸透する, 突き貫ける」
- relevant information 「関連情報」
- grasp 「ぎゅっと掴む」
- actual condition 「実際の状況」
- assumption 「事実だと決めてかかること」
- presumption 「推定, 仮定」
- convey 「伝える」
- clearly 「はっきりと」
- eventually 「最後には」
- fruitful 「実りのある」

A. 21-⑱

～because that is what you are born with 「才能は、生まれつきのものであるから、～」that が何を指しているのかを考えると、前半の **your talent** である。「あなたの才能についてできることは何もない」と述べていることがヒントである。

22-⑥

the student looked a little confused. 「その学生はちょっと困惑していたように見えた」次の第4段落にも述べられているが、介護施設で働くよう提案されたら、まずどう思うかを考えて答えるとよい。

23-⑲

even a very smart student can't understand the real requirements unless he experiences the work 「とても賢い学生でもその仕事を経験しない限り、本当に必要なことを理解できないのである」前文では **if this student works at a care facility, ~** 「介護施設で

働けば、そこで本当に必要とされていることがわかる」と述べられているのに対して、in contrast 「それに対して」のつながりを考えるとよい。

24-⑨

because it reveals the essence of things and people 「なぜならそれは物事と人々の本質を明らかにするからである」 it は直前の friction 「軋轢」を指す。言い争いをする事で国の価値観がわかるという内容である。

25-⑤

when more and more people write and think without going to the actual scene, 「実際の場合に行かずに書いたり考えたりする人々が多くなると」現場にくる人々は素晴らしいメリットを持つだろうという内容になる。

26-⑮

have asked me what it's like in the other areas 「他のエリアにおいてはどんな感じなのか私に尋ねてきた」直前に「3つのエリアの人達は、お互いについて情報をもっていない」と述べられていることから想像する。あわせてここで、What is 名詞 like? 「～ってどんな感じですか」という尋ね方を覚えておくとよい。例文 What is she like? 「彼女ってどんな感じ?」 What's this drink like? 「この飲み物ってどんな感じ?」

27-②

I've recently come to think that~ 「私は最近～と考えるようになった」空欄の直後に that 節が続くことがヒントになっている。come to do 「～するようになる」

28-④

which makes it even harder for anyone to grasp the true situation 「そのことが本当の状況を把握することを誰にとってもいっそう困難にさせている」it は形式目的語 make it C for A to do 「A が～するのを C にする」の形である。which の内容は前半の、思い込み、誤解や憶測などに基づいて決定していることである。

29-③

the news, media is not good at delivering happy news 「ニュースメディアは幸福なニュースを配信することは得意でない」次に続く文に as news media delivers so much negative news 「ニュースメディアは、ネガティブなニュースをたくさん配信するので」と書かれていることから考える。また第9段落の後半でもポジティブなニュースがヘッドライン（見

出しのタイトル) にこないと述べられていたこともヒントになる。

30-⑩

we tend to choose to do what we think we “should” do 「われわれは行う “べき” であると思うことを選びがちである」次の文は But から始まるので逆接を考える。Doing an exciting thing 「わくわくすることをする事」に対して逆接になるように to do what we think we “should” do 「すべきだと考えること」が適切である。

B. 31-②

イ lag behind 「後れをとる」という意味である。一番近いのは①is slow である。○awkward 「気まずい, ぎこちない」, ○superior 「優れた」 ⇔inferior

32-③

ロ things that look like detours 「遠回りに見えること」という意味になるので③longer routes が適切である。○boring work 「退屈な仕事」, ○underpay 「十分な賃金を払わない」 ⇔overpay

33-③

ハ squabbles may occur 「ちょっとした言い争いが起こるかもしれない」という意味なので③quarrels が正解である。次に But you should experience such friction と続くことから推測できる。○friction 「軋轢」, ○theft 「窃盗」

C. 34-③

headline 「見出し」が正解である。○copyright 「著作権」

35-②

even the parties concerned 「当事者でさえ」 concerned は、後ろから修飾している。意味は involved に似ている。

36-②

I'm not necessarily saying that I can get the whole picture when I go to a location, but I can at least get a feeling for the place. 「現地に行けば全体像が把握できると必ずしも言っているわけでないが、少なくともその場所を感じることはできる」 not necessarily で部分否定を表す。○thoroughly 「徹底的に」, ○typically 「典型的に」

D. 37-④

- ①「高野氏は、人々はお互いにとっても本気になる」と本性を出すと述べた」第5段落第2～最終文に一致する。○observe「述べる」、○show one's true color「本性を現わす」
- ②「高野氏は、単にインターネットで多くの情報を得るよりも、現場を訪問して直接経験することは強みや利点があると強く思っている」第6段落最終文と第7段落第1文に一致する。
- ③「インターネットにおける情報は、誤った信念へと導くことがありうる」第8段落のソマリアの例に一致する。
- ④「情報伝達のスピードと手段が発達するので、机に向かいながらすべての必要な経験を積むことができる」第6段落最終文と第7段落の内容に一致していないので誤り。実際現地に行くことが大切でなのである。○accumulate「(経験などを) 積む」
- ⑤「高野氏は、ジャーナリズムの世界では良いニュースよりも悪いニュースがよく売れるとわかった」第9段落第3文、第11段落最終文に一致する。

第5問

和訳

日本語で organ donation を現わす用語は、臓器提供である。日本は”opt in”すなわち“明示的同意”モデルを採用していて、このことはドナーになってもいいと宣言するための書類の記入するなど具体的なアクションをとらなくてはならないという意味である。これは、拒否の登録をしない限り、誰でも提供の意思がある想定されているスペインやオーストリアを含む国々とは違っている。幸いにも日本では”opt in”するためのプロセスは比較的簡単であり、英語でなされることもできる。

日本臓器移植ネットワークによれば、外国人居住者がドナーになることは歓迎、奨励されているが、ドナーの国籍は公表も記録もされないが、外国人が死亡し、他の生命を助ける為に臓器が提供されたというケースもこれまでにあった。

現在、日本では14,000人近くが臓器を待っていて、腎臓が最も必要とされている。しかし、日本はドナーがとても少ないので、命を救ってくれるかもしれない臓器を待っている間に、ほとんどが死んでしまうだろう。臓器移植を受ける為に、莫大な費用で海外に行く人も中にはいる。臓器が余っている国はないので、これは議論を呼ぶ行為である。

臓器移植がより良く受け入れられるアメリカでは、毎年7000から8000件の臓器移植があり、100万人の人口あたり26件の臓器移植となっている。日本と比較して欲しい、日本は100万人あたりたったの0.9件であり、先進工業国では最も低い割合である。

昨年日本で行われたのは 100 件以下の移植手術であった。

そしてこの臓器提供の低い割合の原因は何か。1つ要因は、火葬のときに身体が全部あるべきであるという伝統的な信念があるからであるが、法的障壁やあるやっかいな歴史も一役買っている。1950 年代から 60 年代の間に医学の進歩が臓器移植を可能にしたとき、日本は他の国々と同じレベル、又は先行さえしていた。その後、1968 年のある事件のために発展が止まってしまったのである。

その年、S 医科大学で W 医師が日本で初めての心臓移植を行った。患者は 83 日間生存し、それは心臓移植のそれらの初期においては良い結果であったが、しかしながら W 医師は猛烈な非難を受けた。批判をしている人は、特に外科医自身が、ドナーが脳死であると決定したので、正真正銘の犯罪者でないとしても、手術は非常に不適切であったと告発した。当時は脳に基づく死の概念（脳死）はまだ新しく日本ではその定義の仕方に関してコンセンサスがなかった。W 医師に対する刑事告発は最終的には取り下げられたが、国民には強い不信感が残った。

その後、脳死を定義する法律を制定して脳死患者から臓器を移植することを法律で正当化させるのに数十年かかった。現在では、脳の機能が完全にかつもとに戻らない状態に失われた後でさえ、心臓が拍動を続けて体温が温かいままであることを理解している人は多い。今の世論調査は、脳死後に臓器提供の意思表示における増加を示している。“2013 年の調査では回答者の 43.1%が脳死の後、進んで臓器提供することを表明し、一方 23.8%は反対のままであった。”

それでは、運転免許証の話に戻そう。裏のフォームに記入することによってドナーになることの意味表示ができるし、どんな状況のもとでも、または一切の臓器提供に反対する登録もできる。運転しない人たちにとっては、同じ書式が健康保険証の裏に記載されている。個別の臓器提供の決定カードは（臓器提供意思カード）に意思を記載することも可能であり、それは市役所などや薬局などで、無料でもらえる。英語用のカードはダウンロードできる。

書かれている指示について説明させてもらおうと、それらは日本語版英語版でも同じであるが。「1」をまるで囲めば、心臓死の後の臓器提供と同様に、脳死の後に臓器を提供することに同意したことになる。「2」を囲むと、心臓死の後に限って同意をすることになる。「3」を囲むと、まったく提供しないという意味になる。リストにあげられた臓器“心臓、肺、肝臓、腎臓、すい臓、腸、眼”のどれかに「X」をつけることは、その臓器を提供する気はないという意味である。自分の意思について家族と話し合い、あなたの署名の隣にサインをしてもらうのはよい考えである。家族はいつも臓器提供を拒否する権利があり、もしあなたの意思がはっきりしていないならば、現在、法律によって家族が臓器提供に賛成の決定をできる。前もってあなたの意思について話し合うことは、家族が自分の意思に沿ってくれる可能性が高まる。

日本では、身体全体を科学に提供することも可能であり、それは献体と呼ばれるが、

他の国々のように臓器を提供して残りの部分をメディカルトレーニングや研究に残すことはできない。さらに、身体を提供する為には医学部に直接問い合わせなくてはならないし、臨終の時に医学部が引き取る保証はない。現在のところ、もしかしたら全身の提供を日本の高額な火葬費用を避ける為の方法とみなす人たちもいるために、解剖用の死体が全国的に供給過剰になっているのである。

<出題された単語・熟語・文法・センテンス>

- opt in 「オプトイン方式；参加や加入，承諾などの意思を相手方に明示すること」
- explicit 「明白な，露骨な」
- presume 「仮定する」
- neither A or B 「A も B もない」
- disclose 「あらわにする」
- kidneys 「腎臓」
- crushing 「圧倒的な」
- controversial practice 「議論を呼ぶ行為」
- surplus 「余剰，余り」
- work out 「結果が～になる」
- industrialized world 「先進工業国の世界」
- account for 「～主な原因となる」
- legal obstacle 「法的障壁」
- medical advance 「医学の進歩」
- on par with 「～と同じレベルで」
- standstill 「停止」
- outcome 「結果」
- under fire 「非難を受けて」
- intense 「激しい，猛烈な」
- highly 「非常に」
- 第6段落第2文~, if (he was) not downright criminal,~ 「正真正銘の犯罪者でなかったならば」
- consensus 「コンセンサス，一致」
- 第6段落最終文 Criminal charges were dropped. 「刑事告発は取り下げられた」
- distrust 「不信感」
- 第7段落第1文 It took several decades after that to enact a law defining brain death and making it legal to transplant organs from brain-dead patients. 「その後，脳死を定義する法律を制定して脳死患者から臓器を移植することを法律で正当化させるのに

数十年かかった」it は a law を指している。make it legal は make+O+C (形容詞)「O を C にさせる」という意味である。make の本質的な意味は強制的に現実化させるということである。

- pick up 「手で取り上げる」
- municipal office 「市役所」
- instruction 「指示」
- consent 「同意する」
- cardiac 「心臓の」
- pancreas 「すい臓」
- intestine 「腸」
- in favor of 「～を支持して，～に賛成して」
- at the moment 「現在のところ」
- oversupply 「供給過剰」
- cadaver 「解剖用の死体」

38～45 (2) (10) (15) (17) (21) (24) (26) (30)

- (1) 「“明示的同意”とは、あなたが同意しないという意思を、なにかの明白な方法で明らかにするまでは、同意しているとみなされることである」第1段落第2文に合致しない。○ assume 「当然～と思う」、○ unwillingness 「気が進まない態度」
- (2) 「スペインではドナーにならないという意思表示をするには書類に記入するなど、具体的な行動をとるひつようがある」第1段落第3文と一致する。○ fill in a form 「用紙に記入する」≒ register
- (3) 「すべてのオーストラリア人は死後、進んで臓器提供をする」第1段落第3文を読むと、進んで臓器提供すると書かれているが、すべての人とは言っていないので、一致しないと考える。
- (4) 「日本でドナーになるための明示的な同意の方法は極めてわかりにくい、日本語でも英語でも可能である」第1段落最終文に一致しない。テキストには、意思表示は比較的簡単であると書かれている。
- (5) 「日本では、外国人は1年以上滞在してようやくドナーになる資格が与えられる」第2段落に着目する。しか1年以上とは記述されていない。
- (6) 「日本で外国人がドナーになることは可能であるが、今までに一例もなかった」第2段落に、外国人の事例もあると述べられている。
- (7) 「14,000 人弱の日本人が移植のための新しい腎臓を待っている」第3段落第1文には、待機している人が 14,000 人で、その中で腎臓がもっとも必要とされていると書かれている。一致しないと判断する。

- (8)「世界には移植の為に臓器を外国人に提供する余裕がある国がいくつかある」第3段落最終文に一致しない。
- (9)「日本では移植手術を待つ人々にとって臓器は不足しているので、お金持ちの人がウェイティングリストのトップにつくためにたくさんのお金を使うことはよくある」該当箇所なし。
- (10)「もし臓器提供の意思表示をしてくれる人々がもっと多かったならば、日本で腎臓移植を必要としている人々の中には、死なずにすんだであろうに」第3段落第1・2文に書かれている内容から推測できるので正解である。
- (11)「アメリカ合衆国を除いて、世界には臓器に余剰がある国はない」第3段落最終文に一致する。
- (12)「日本における臓器移植の割合は、世界の先進工業国で最も低く、人口1000人当たりにつき移植件数は0.9件にすぎない」第4段落第2文によると、100万人当たりとなっているので誤り。
- (13)「日本では、去年少なくとも3日に1回の臓器移植が行われたが、それは他の工業国よりもはるかに少なかった」第4段落最終文をみると、移植の手術は年間100件を下回った、というのがテキストの内容だったので誤り。
- (14)「火葬をするときの遺体についての伝統的な信念のために、1950年代の日本の臓器移植は進歩しなかった」第5段落第2・3文には、当時の日本の臓器移植レベルは他国と同等以上であったと書かれている。火葬は確かに1つ理由になっていたが1950年代に限ったことではないの誤りとする。
- (15)「1960年中ごろ、臓器移植に関しては他国には遅れていなかった」第5段落後半部分に一致する。
- (16)「W医師は脳死判定の公的基準による手続きを無視して、最初の心臓移植を行い、臓器移植に対する深い不信感を残した」第6段落第3文から最終文には、当時は脳死判定のコンセンサスがなかったと書かれているので、“公的基準による手続きを無視して”というところが誤り。
- (17)「1968年に行われた日本で最初の心臓移植は技術的な専門意見というよりもむしろ道徳的な意味合いのために非難された」第6段落第2・3文には **the operation was highly improper, if not downright criminal,**~「正真正銘の犯罪者でないにしても、その手術は非常に不適切であった」とあるので、正解である。
- (18)「W医師は自分自身で脳死の決定(脳死判定)を行ったことに対する告発で有罪となった」第6段落最終文によれば、不起訴なので誤り。○guilty「有罪」⇔innocent
- (19)「今日、日本における人口全体の43.1%は、脳死の後に臓器を提供することに同意している」第7段落最終文に不一致、同意したのは調査の回答者の43.1%である。
- (20)「W医師の件の数十年、脳死は心臓停止の状態であると法律によって定義された」テキストに記述されていない。

(21)「脳死とは、死を宣告された後でも心臓が拍動をされていて身体がまだ温かいかもしれないことを意味する」第7段落第2文に一致する。

(22)「2013年に行われた世論調査によれば、回答者の43.1%は脳死のドナーになることに賛成し、ちょうど同じ数の人々が反対していることがわかった」第7段落最終文に一致しない。反対者は23.8%である。○poll「世論調査」、○be for「賛成である、支持する」、○as many~「~と同じ数の」

(23)「ドナーになりたいが運転免許を持っていないならば、いつでも市役所へ行って健康保険証を見せて臓器移植の意思を登録してもらうことができる」第8段落第3・4文に一致しない。○health-insurance card「健康保険証」、○register「登録する」

(24)「インターネットにつながるパソコンがあるならば、家にて英語で書かれた臓器移植決定カードを手に入れられる」第8段落最終文に一致する。

(25)「著者は、臓器提供の問題について家族と話し合うことは、それは彼らが将来のあなたの意思に関わるからではなく、自分自身の意思を自分のはっきりすることに役立つから、勧めている」第9段落最終文に一致していない。

(26)「日本では、もしドナーの意思がはっきりしていない場合には、大切な家族の臓器を提供するか拒否するかの最終的な決定する権利は家族に与えられている」第9段落第6文に一致する。

(27)「提供されることのできる臓器はいくつかあり、いったん臓器提供を選択すると『X』がそれらすべての臓器に記される」第9段落第4文をみると『X』は臓器提供しないという記しであるから誤り。

(28)「臓器提供が自分自身の家族に対してであるという条件においてのみ、臓器を提供して身体の残りを献体として提供できる」テキストに記述なし。

(29)「メディカルトレーニングと研究に貢献する為に、臓器提供の後に身体を提供する意思を述べる人たちもいる」最終段落を読むと、臓器提供の後という記述はないので、誤りと判断する。

(30)「個人個人は、献体の候補になるためには医科大学に直接問い合わせを行わなくてはならない」最終段第2文に一致する。

<出題された単語・熟語・文法>

- conscious「意識のある」
- conquer「征服する」
- chore「雑用」
- broad「広々とした」⇔narrow
- knowledge「知識」
- protein「たんぱく質」
- raise「もち上げる」

- make a fool of oneself 「ばかな真似をして笑いものになる
- may well do 「～するのも無理はない, もっともだ」
- no more 「それ以上～ない」
- by no means 「決して～しない」
- disappointment 「期待はずれ, 失望のもと」
- deception 「詐欺, 欺くこと」
- discontent 「不平不満」
- disgust 「嫌気」
- disillusion 「迷いから覚まさせる, 本当のことを教える」
- reception 「披露宴」
- in a serious jam 「窮地におちいって」
- out of curiosity 「興味本位」
- turn down 「断る」
- cut off 「切り取る」
- go through 「通り抜ける, 経験する」
- take over 「引き継ぐ」
- feel weak 「弱る」
- medication 「薬剤」
- ordinary 「普通の」
- point of view 「物の見方」
- accumulate 「積み重ねる」
- overwhelming 「圧倒的な」
- effective 「効力を発する, 効果がある」
- path 「小道, 進むべき方向」
- lag behind 「競争相手に後れを取る」
- practical application 「実用的応用」
- nursing care facility 「介護用施設」
- detour 「回り道」
- requirement 「要求されるもの」
- squabble 「つまらないことでのけんか」
- friction 「軋轢」
- ethnic distinction 「民族的相違」
- national background 「国民的背景」
- awkward 「気まずい, ぎこちない」
- superior 「優れた」 ⇔ inferior
- thoroughly 「徹底的に」

- typically 「典型的に」
- opt in 「オプトイン方式；参加や加入，承諾などの意思を相手方に明示すること」
- explicit 「明白な，露骨な」
- presume 「仮定する」
- neither A or B 「A も B もない」
- disclose 「あらわにする」
- kidneys 「腎臓」
- crushing 「圧倒的な」
- controversial practice 「議論を呼ぶ行為」
- surplus 「余剰，余り」
- work out 「結果が～になる」
- industrialized world 「先進工業国の世界」
- account for 「～主な原因となる」
- legal obstacle 「法的障壁」
- medical advance 「医学の進歩」
- on par with 「～と同じレベルで」
- standstill 「停止」
- outcome 「結果」
- under fire 「非難を受けて」
- intense 「激しい，猛烈な」
- highly 「非常に」 assume 「当然～と思う」
- unwillingness 「気が進まない態度」
- fill in a form 「用紙に記入する」 ⇔ register
- guilty 「有罪」 ⇔ innocent
- poll 「世論調査」
- be for 「賛成である，支持する」
- as many~ 「～と同じ数の」
- health-insurance card 「健康保険証」
- register 「登録する」

